



建設情報誌

C-net通信

Vol. 505

さが

『C-net通信』で 検索

2020年10月7日

(毎週水曜日発行)

<http://www.nsci.co.jp>

発行所：(株) NSC 佐賀市日の出1丁目16-19

TEL 0952・97・9643 FAX 0952・97・9647

第23回地盤工学セミナー

土構造物の防災・減災

佐賀県地質調査業協会

(一社) 佐賀県地質調査業協会(原裕理事長)は去る9月30日、2020年度第2回(通算第23回)の地盤工学セミナーを唐津市の高齢者ふれあい会館りふれで開催した。建設関係や自治体の職員など約60人が参加。「土構造物等にかかる防災・減災対策」をテーマに、近年の気候変動に伴う集中豪雨による地盤災害、道路法面の防災対策などについて講習を受けた。

冒頭、原理事長は「近年は地球温暖化の影響で気象条件が変化し、昨年8月に佐賀豪雨、ことし7月に熊本を中心とした九州豪雨で大きな被害が出ている。増え続ける災害に対処するためにも本日の講演を役立ててほしい」とあいさつした。

まず、九州大学工学研究院社会基盤部門の石蔵良平准教授が「近年の九州における地盤災害発生状況と土構造物の危険度評価に向けた取組み」について講演。17年九州北部豪雨や20年7月豪雨で発生した斜面、堤防、ため池などの地盤災害の特徴を紹介した。

石蔵准教授は、九州北部豪雨で福岡県朝倉市のため池108カ所のうち44%が被災したデータを示し、土砂流入や流木による越水で堤体浸食した可能性を指摘。3時間雨量200mm以上の地域では90%以上が被災していること挙げ、降雨形態に着目した被害状況の分析が重要だと説いた。

次いで、佐賀県道路課の満石孝司技術監が「佐賀県管理道路の防災・減災対策」と題して講演を行い、道路法面の防災対策に取り組んでいる現状などを説明。満石技



原理事長



石蔵良平九州大学准教授

術監は、県管理道路の防災点検要対策箇所614カ所のうち、20年度までに緊急輸送道路の126カ所で96%、緊急輸送道路以外の488カ所で85%の整備目標を掲げていることを紹介した。

このほか、原理事長が「地球温暖化とミラクルソルの環境負荷低減技術」のテーマで講演。路盤材に保水機能を持つミラクルソルを使い、降雨や打水による気化熱を利用して路面温度の上昇を抑制できるFWG透保水性舗装工法を解説した。



満石孝司県道路課技術監

【10月5日HP掲載】